

研究主題 「自己を見つめ、共によりよく生きる児童の育成」

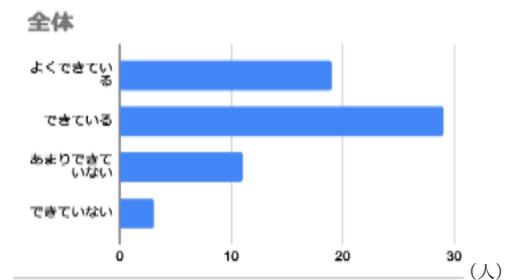
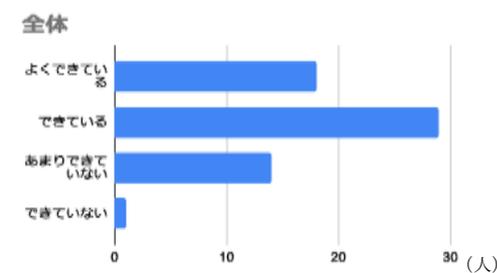
～振り返りを起点とした授業づくりを通して～

1 主題設定の理由

(1) 児童の実態

昨年度の校内研修において、児童を対象に「道徳アンケート」を実施した。例えば、「親切・思いやり」に関する内容では、「だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の気持ちを考えて親切にしている」と項目立てて質問した。

結果は全体的に概ね良好な意識をもっているといえるが、その中で、「正直・誠実」、「礼儀」に関しては、他の内容項目と比較して全体的に「あまりできていない」、「できていない」と回答する児童が多いことが分かった。(グラフ1・2)



< グラフ1 価値項目「正直・誠実」について >

< グラフ2 価値項目「礼儀」について >

「うそをついたりごまかしたりしないで、正直に明るい心で生活している」

「時と場をわきまえ、だれにでもこころのこもったあいさつや言葉づかいをしている」

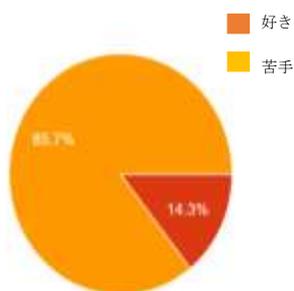
(2) 教師の実態

教師を対象とした「道徳授業に関するアンケート」の調査からは「道徳科の授業が苦手だ」と回答した教師が多く、道徳科の授業に対する不安があることも浮き彫りとなった。特に、授業の進め方や発問の仕方、交流のさせ方に不安をもつ教師が多かった。(グラフ3・4)

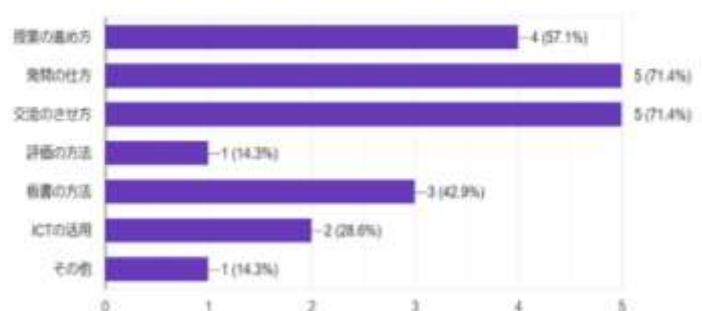
また、昨年度の校内研修では、伝え合いや振り返りの活動を通じた道徳科の授業改善を行ったところ、「活動の場や時間の設定が難しい。」「振り返りの時間を十分に確保できない。」といった課題が挙げられた。

1. 道徳の授業について、どのように思っていますか？

2. 道徳の授業について、不安に思っている部分はなんですか？(複数回答可)



< グラフ3 道徳授業への意識 >



< グラフ4 道徳授業づくりの課題 >

(3) 主題設定の理由

こうした状況を受け、振り返りに現れる児童の言葉からスタートする授業づくりを行っていくことを通して、児童一人一人が自己の内面と向き合えるようになることを目指す研究を行うこととした。振り返りの場で現れてほしい児童の姿を明確にし、ねらいやめあて、中心発問や補助発問を考えて授業改善を図れるよう、今年度の主題を「自己を見つめ、共によりよく生きる児童の育成」、副主題を「振り返りを起点とした授業づくりを通して」と設定した。この主題のもと、研究を通して、児童が授業で学んだことを基に内省し、自身の価値観や行動について更に考えを深められるようにしていきたいと考えている。併せて、振り返りに現れる児童の姿を、教師が適正に評価していくことを通して、教師自身も自らの授業の更なる改善につなげることを目指していく。

2 研究のねらい

道徳科において、振り返りを起点とした授業づくりを行うことを通して、自己を見つめ、共によりよく生きる児童を育成する。

また、そのために、振り返りに現れる児童の姿を明確にし、それを目指した授業づくりと、指導と評価の一体化を目指す。

3 研究主題について

「自己を見つめ、共によりよく生きる児童の育成」 ～振り返りを起点とした授業づくりを通して～

<目指す姿>

- ① 自己を見つめ…身の回りの事象を自分事として捉え、深く内省し、自己受容感の基礎を築くこと。
- ② 共によりよく…他者の存在を認め、自他共に生かし合う関係性をよいものと捉える心情、態度。

4 研究の内容

(1) 「道徳構想シート」の活用

単位時間の授業を構想する際の補助シートとして「道徳構想シート」(図3)を作成し、各教員で活用する。このことを通して、誰でも、簡便に、児童の実態把握をもとに、その時間に扱う道徳的価値に沿って、ねらい・めあて・振り返りの一貫性を意識した授業づくりができるようになることを目指した。

「道徳構想シート」は児童の実態と内容項目から身に付けさせたい道徳性を吟味し、振り返りで表出させたい児童の考え・思い・気づきを明確にした上で、めあてと授業展開を作っていく構成としている。

また、「道徳構想シート」を使用して研究を進めながら、「道徳構想シート」の項目等をアップデートしていくことを通して、身に付けさせたい道徳性を明確にし、学年を超えて大切な要素を焦点化するとともに、共通理解を図れるようにする。

道徳構想シート 授業予定日 10月 15日 本曜日 2時間目

教科書 1年 「はしのうえのおおかみ」 道徳内容項目 「自親切、思いやり」

1. 本時の授業の価値と想として、ふりかえりて児童に思いほしいこと。(ねらいを達成した児童の言葉)

① 思っていた道徳性①〇 (1) 省察の ② 省察 ③ 省察

〇 親切にすると気持ちがいいな。
〇 親切にすると相手喜んでくれる。
〇 親切にされると気分がよくなる。

2. 本時のねらいをめあて(〇〇を通して、△△△を養う、など)

意図をしたときに、親切にしたときを制作することを通して、意図をしたときよりも、親切にしたときのほろろと気持ちがいいことに気づき、身近にいる人を選んで親切にしようとする心構えを育てる。
① しんせつにしたり、されたりは、どうしてしたくなるのだから。

3. ねらい達成のために、本文のどの部分を取り上げて、どんな展開をするか。(中心発問の割合と聞き方)

② つかいめの「えへん、へん」はどのような場面で行っているのだろうか。

- やさしくできて、うれしい。
- よろこんでくれた。
- くまさんみたいにやさしくできた。
- しんせつにすると気持ちがいい。

4. 児童の思考が「親切、思いやり」という道徳的内容項目に向かっていくために、中心発問のほかに、どのような展開をするか。(補助発問の準備)

〇 「褒められたから、するんじゃない?」
〇 「先生が言うから、親切にするん、じゃない?」
〇 「死なれるから、親切にするん、じゃない?」

③ 授業本展開に行って、気付いたことや考えたことを書いてください。(「道徳シート」に関することも含む)

① 目的の「えへん、へん」と2項目の「えへん、へん」を比べたほうが、よりの差が深まったのではないかと。

< 図3 道徳構想シート >

(2) 道徳実践記録「すくすく」を活用した授業づくり
 児童の「振り返り」の姿を、次時以降の授業に生かせるよう、次のことを行う。

- ①板書の写真と児童の「振り返り」の姿をまとめた道徳実践記録「すくすく」を授業後に作成し、教師と児童とで共有する。(図4)
- ②「すくすく」作成の過程で、導入・めあて・展開が、児童に身に付けさせたい道徳性を育むことができたかを省察する。
- ③省察により得た教師の気づきを、次時の授業づくり(「道徳構想シート」)に反映させる。

このサイクルを通して、より児童理解を深め、一層児童の実態に即した授業づくりができるようになることを目指す。

また、日常的に児童の目に触れるよう廊下に掲示することで、児童自身がどのような学びを積み重ねてきたか、わかるようにする。

すくすく	内容項目：A 正面、誠実
正直な心「お月さまとコロ」	10月29日(水)

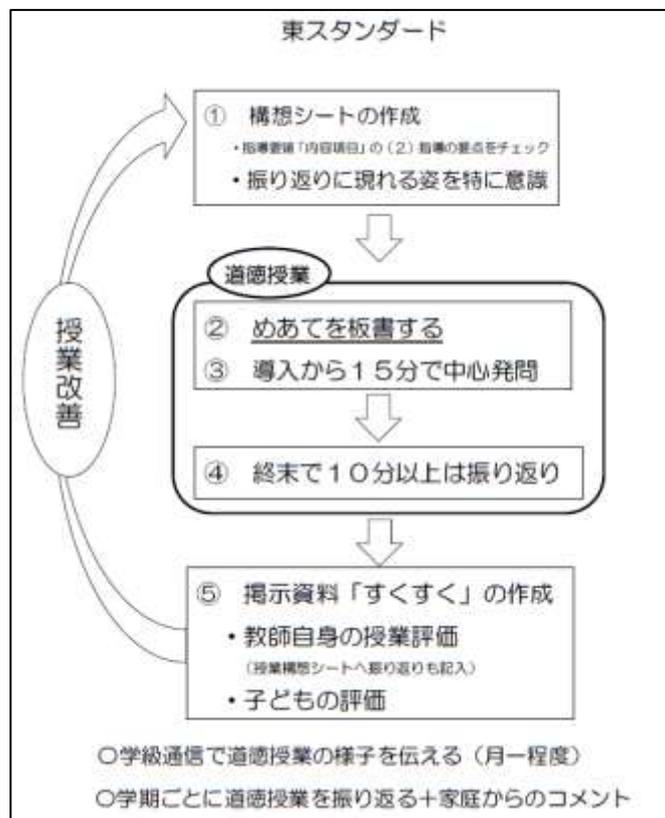


- みんなの振り返り
- ・自分の気分で態度を変えない。
 - ・けんかをしたら、すぐに謝りたい。
 - ・言い返さないで、「教えてくれてありがとう」と言いたい。
 - ・あとのことを考える。
 - ・これからは素直に聞きたい。
 - ・言い返さないで、素直に聞きたい。

< 図4 「すくすく」(2年生) >

(3) 「東スタンダード(道徳授業展開の骨子)」の実践

「道徳構想シート」と並行して、授業展開についても本校共通の進め方「東スタンダード」(図5)を作成し、実践する。このことも、誰でも、簡便に、価値項目に沿った授業づくりができるようにすることを目指している。

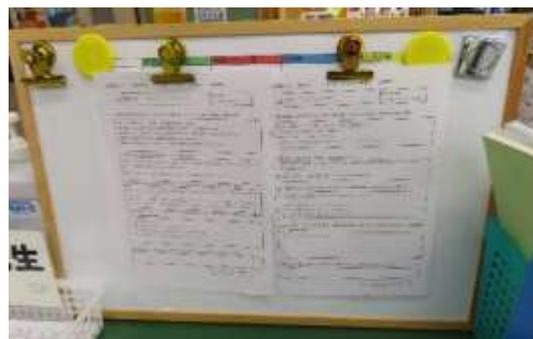


< 図5 「東スタンダード」 >

5 研究実践

(1) 「道徳構想シート」を用いた相互参観

作成した「道徳構想シート」は、職員室内の掲示コーナーに掲示し、教員同士が相互参観できるようにしている。このことを通して、参観後のフィードバックでは、教員間で自然に道徳について話し合う機会が増えてきたり、管理職から授業づくりの指導助言が充実したりしてきている。職員室全体として、互いに無理のない範囲で参観し合い、意見を交換し合う文化が醸成されてきているといえる。



< 図6 授業構想シート掲示板 >

(2) 道徳実践記録「すくすく」の掲示

各学年教室付近に「すくすく」を掲示し、教師だけでなく、児童も見られるようにし、各学年での学びを共有できるようにした。掲示に当たり、内容項目の4つの視点AからDで色分けして掲示する工夫を加えた。このことにより、学期末や年度末に道徳授業全体を振り返る際に、児童が4つの視点を意識して考えられるようになることを期待している。



< 図7 「すくすく」掲示コーナー >

(3) アドバイザーの招請

研究の進捗に合わせて、適宜、アドバイザーを招聘し、ご指導いただいた。

- 吾妻教育事務所指導主事 須藤宣之先生 1/27、4/28、5/28、6/26、7/2、9/3、10/3、10/23
- 吾妻教育事務所指導主事 佐藤美子先生 9/3、10/3
- 群馬大学共同教育学部附属教育実践センター 久保信行先生 2/16、10/3



6 成果と課題

<中間調査結果より>

- ・本研究の中間調査として、教師へのアンケート調査を行った。「4月から、道徳授業への意識は変わりましたか」の設問では、回答した全ての教師において意識が変わったと回答し、その全てが次に記述する成果のとおり、プラス方向の変化であった。このことから、4月当初に比べ、教師が自信をもって道徳授業に取り組めるようになってきた様子がうかがえる。

<成果>

- ・「道徳構想シート」の活用と授業の相互参観により、職員全体で道徳について学び合おうとする機運を高めることができた。
- ・「道徳構想シート」を作成することで、「身に付けさせたい道徳性」、「めあて」、「振り返りで児童に書いてほしいこと」が授業者の中で明確になり、中心発問・補助発問等と併せて一貫性を意識した授業づくりを行えるようになってきた。
- ・「東スタンダード」を活用することで、授業の時間配分を意識するようになり、振り返りの時間を確保できるようになった。
- ・授業後に「すくすく」を作成し「振り返り」を丁寧に分析することを通して、児童の実態をより適切に把握できるようになった。また、教師自身が授業を省察する契機となり、授業を改善していこうとする意識の向上に役立った。
- ・同じ内容項目の授業をする際には、前時の「すくすく」を、児童理解を深めるための参考資料としたり、導入の提示資料としたりすることで、授業改善に生かすことができた。結果として、児童の「振り返り」が質・量ともに向上し、より深く道徳的価値に迫ることができた。

<課題>

- ・「すくすく」をあまり見ない児童もいる。道徳の授業を通して興味をもたせ、教師だけでなく児童も含めて道徳の授業を大事にしていく機運を高めていく必要がある。
- ・振り返りで現れる児童の言葉は大切であるが、一方で児童の学びの過程に焦点を当て、授業内でどのように学んだかを意識して評価していく工夫も必要がある。
- ・「道徳構想シート」や「東スタンダード」を活用しても、振り返りで現れてほしい児童の言葉を十分に引き出せないことがある。児童の実態を適切に把握することや、交流のさせ方・補助発問での児童の考えの引き出し方などの授業技術、また学級経営そのものの在り方など、改めて見直すことが必要である。
- ・最終的には児童一人一人に対して個別に評価し、道徳性を高めていくことが理想といえる。少人数であることを生かした授業づくりや評価の在り方も考えていく必要がある。